

豊川小だより

2月号

令和6年2月1日
北区立豊川小学校
校長 中村 順子

豊川小ホームページ

<https://www.city.kita.tokyo.jp/gakkoshien/kosodate/shogakko/gakkojoho/kuritsu/toyokawa/index.htm>

ホームページ

QRコード



「心を寄せる」

校長 中村 順子

能登半島地震の発生から1か月が経ちましたが、残念ながらまだまだ復旧のめどさえ立っていない状況が多く見られます。子供たちもそのような被災地の様子を、日々ニュースなどで見聞きしています。すると「自分たちが何か役に立てることはできないか」という声が、いくつものクラスから上がりました。そこで代表委員会の児童が中心になって募金活動を行うことを企画し、1月18日と19日の2日間の登校時に実施しました。当日は、自分のお年玉から少し出したという子、家族で相談したとあって、かなり大きな金額を持って来た子、また「募金したいなって思ったから、できてうれしい!」と笑顔で話しながら募金箱にお金を入れている子など様々でしたが、募金をし終えたどの子も「自分の行動が役に立てる」といった、満足そうな表情をしていたように感じました。

*

先日たまたまラジオで、お笑い芸人「サンドウィッチマン」の番組を耳にしました。サンドウィッチマンは東日本大震災で被災し、その後様々な復興支援をしたことで知られています。今回の能登半島地震では、彼らが開設した「東北魂義援金」で制作され気仙沼市に寄贈された2台のトイレトレーラーが、輪島市の鳳至小学校に派遣されました。現地の人々の役に立っていることは言うまでもありません。しかしその話の中で、いつもは軽妙な笑いで人気のあるサンドウィッチマンの2人が、このときばかりは強い口調で「トイレトレーラーなんてのは、俺たち個人ががんばることじゃないんだよな。(災害時には)絶対必要になるんだから、普段から国が用意して、もしもの時に一斉にワースと集めればいいじゃん。」と話していました。

このことが気になったので調べてみたところ、日本国内に「災害派遣トイレネットワークプロジェクト～みんな元気になるトイレ～」という、クラウドファンディングを使ったプロジェクトがあり、300の自治体が検討中で、うち20自治体では導入されたとありました。一方、日本と同じように地震大国のイタリアでは、地震などの災害が起こると、災害専門の政府機関「市民保護局」が一貫して対応するシステムがあり、災害ボランティアである「職能支援者」も国が管理するそうです。この「職能支援者」は料理を作るコック、物資を運ぶトラック運転手など多岐にわたり、登録者は300万人に登るといいます。

*

国が違ふとあらゆるシステムが違ふのは当然です。しかし根底に共通してあるのは、被災した人たちを一刻も早く支援したいという気持ちです。今回の豊川小学校の代表委員会児童による募金活動も、被災者に「心を寄せる」ことを形にした一つだと思います。子供たちの思いと、保護者の皆様のご協力のおかげで、たった2日間にも関わらず、おかげさまで145,765円の義援金が集まりました。全額、日本赤十字社を通じて、被災した皆様に確実にお届けします。ご協力くださった皆様に、この場を借りてお礼申し上げます。



遠くの人にも、また目の前の友達にも、相手の気持ちを推し量って行動し「心を寄せる」ことができる、温かな心をもつ子供たちを、豊川小職員一体となって育てていきたいと思っています。